

令和3年3月

『歴史文化の拠点づくり構想』

いづな歴史ふれあい館

<背景>

飯綱町は令和7年度に町制20周年を迎える。その大きな節目を前に、子どもから大人にまで、この町に暮らすことの安堵と、確かなアイデンティティーの確立が望まれている。

平成17年の新町誕生に伴い、「むれ歴史ふれあい館」は「いづな歴史ふれあい館」に名を変えたが、館には牟礼地区の史資料の展示がある一方、住民の暮らしを支えてきた三用水をはじめとする三水地区の遺産に関わる展示がほとんどなく、2つの小学校の体験学習の際にも対応に苦慮しているのが実情である。展示の偏りをそのまま放置しておくことは許されないことで、令和元年11月に有識者を集めて開催された「歴史ふれあい館協議会」でも、町の大きな課題と指摘された。

度重なる自然災害や新型コロナウイルス禍の下、家族と地域の絆こそが暮らしの安全と安心の基盤であることに立ち返る必要がある。今こそ新しい町として、幅広い年齢層の町民と来訪者に愛され、町の過去・現在・未来を共に学び、語り合える、歴史文化の拠点づくりが不可欠である。

<構想の概要>

事業は5か年をかけ、各年度の特別展企画を積み上げながら、現在の歴史ふれあい館の展示や設備、機能を発展的に見直すものとする。町内の学校やアップルミュージアム等との連携を強化し、トレンド時代にふさわしい全町民のための文化創造事業と位置づける。

<各年度の計画>・・・各年度の企画積み上げ方式による展示と館の機能の更新

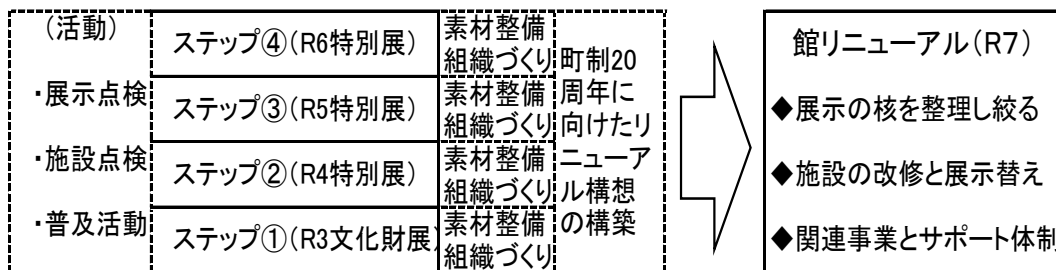
- ・令和2年度：町制15周年を記念し、町の指定・登録文化財の全33件をまとめて紹介する特別展を予定したが、新型コロナウイルス禍を受けて年度内には図録の刊行を行うものの、図録は令和3年度に延期する。併せて、館の改修・改善に向けた基本方針を策定。

- ・令和3年度：より充実した形で延期された特別展を開催し、これを拠点づくりステップ①と位置付ける。併せてステップ②となる令和4年度の特別展の企画準備に入る。
- ・令和4年度：拠点づくりステップ②の特別展とステップ③の準備。
- ・令和5年度：ステップ③の開催とステップ④の準備。
- ・令和6年度：ステップ④の開催と町制20周年特別展（令和7年）に向けた準備に入る。併せて館の展示替えと改修の実施。

＜5カ年をかけたリニューアル構想検討と併行し、恒常的に展示内容改善をはかる＞

- ・既存の施設機能と展示について、改善点の洗い出しと提案
- ・限られた予算の中で、恒常的な博物館活動の一部として既存展示の補修、改良、補足の試行を重ねる
- ・上記の試行の経験をリニューアル構想に活かしてゆく
- ・ポスト新型コロナウイルス社会の到来に対応した対応

＜特別展企画の積み上げ方式による、リニューアル構想の見取り図＞



- ☆令和4年～6年度の ■暮らしを支える水の恵み(町の用水と水源)
 特別展②～④の
 テーマ候補(例) ■災害に備える(町の自然と災害、歴史から未来へ)
- 食べること、暮らすこと(過去・現在・未来)
-